



しげんせいがん
鰓原性癌
 (branchiogenic carcinoma)

名誉院長 西 田 敬

何の因果か、将又、祟りか？鰓原性癌 (branchiogenic carcinoma) に取憑かれた。読み下すさえ困難だが、頭頸部領域癌の一つ。鰓の一字があるから、釣った魚の魂魄が、自身の身体に祟ったのでは？と怖れる。然もありなん。確かに身に覚えはある。見当はつく。釣り場での殺生の限りを尽くした身にしては何に祟られても文句は云えんが、頸部廓清術には参った。何しろ、唾液腺（顎下腺。耳下腺が、根こそぎ除去されるから食餌の際に唾液の分泌不足が顕著となる。饅頭は喰えても、

寿司は辛うじて、パンは金輪際、喉を通らない。病理組織学的には扁平上皮癌で術後放射線療法は避けられぬ。其れも是も、天罰と思うから潔く甘受する。加えてchemoradiation therapyの名の下に抗癌剤の併用まで。

医者の不養生とは良く耳にする言葉だが、今回の一件では不養生の憶えが一向に御座らぬ。釣り仲間には耳鼻科医の兄弟も居るが、同様の病に取憑かれた耳鼻科医なんて皆無。何の祟りか判らぬが、茲は何はともあれ、お祓いを。八百万の神様の守備範囲は広い。霊現、灼とも云うし、茲は縋るに如くはない。六根清浄、御山は晴天、南無八万大菩薩、八百万の神、も御照覧あれ。プロフットボールのキーパーの様なmasqueを付けて照射を受けた。決して異性に、怖がられこそすれ、惚れられる格好ではない（女房にも御披露していない）。ともあれ、予定の治療コースを熟し、治療後のfollow-upへ。扱、困った。誰もbranchiogenic carcinomaなんてnatural historyを知らん。治療後のfollow-upは如何すりゃ良いのじゃ！意外な顛末が待つ。

